

## 非球面の形状測定に関する研究

伊藤俊治\*<sup>1</sup> 山本昌治\*<sup>1</sup> 岡田弥高\*<sup>1</sup>

Study on Measurement of Aspherical Form

Shyunji ITOH, Masaharu YAMAMOTO and Yataka OKADA

前年度に提案した基本法に基づきながら、円周方向の走査データをヌルとする簡便法、及びZ切片を合致させる合致法の特性を検討した。以下に要約する。

1. 簡便法、合致法においては、円周方向の断面曲線を測定しないことから、高精度な空気軸受式の回転テーブルが不要で、安価なすべり軸受式の角度割出テーブルがあれば良い。
2. 簡便法、合致法においては、角度割出テーブルの回転軸のふれ誤差の影響は小さかった。
3. 簡便法、合致法の測定誤差は、試料の円周方向の断面曲線に含まれる奇数山成分の大きさにほぼ比例した。
4. 簡便法、合致法に要する測定時間は、基本法に要する測定時間の約 1/2 であった。
5. あらかじめ試料の形状偏差において、円周方向の凹凸が少ないと予想される場合、測定時間及び空気軸受式の回転テーブルを必要としない点で、簡便法、合致法が基本法より有利である。

---

\*<sup>1</sup> 機械電子部